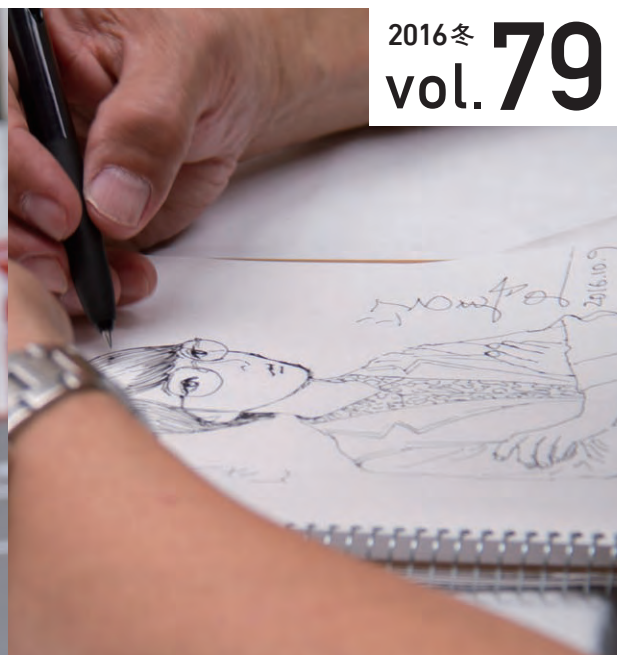


ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

2016冬
vol. 79



上通商店街でライブスケッチを行う江口寿史さん
写真提供: 田辺浩章 (P.K.K.)

巻頭言

ロンドンとアート、2016年秋

この秋訪れる機会があったロンドンは、国民投票によるEU離脱決定後、政治的にも経済的にも暗雲立ち込める中、芸術文化の面では高揚感に満ちていました。国立美術館ニュー・テイト・モダンが開館して国際的な注目を浴び、その他の主要美術館、劇場、オペラハウス、そしてコンサートホールでは、極めて刺激的ですぐれた企画が目白押しでした。10階建てのニュー・テイト・モダンは、隣接する今までのテイト・モダンと合わせて世界の50カ国以上のアーティストによる作品を展示、女性作家の進出が目立ち、美術館の概念を変えるほどのインパクトを持った現代美術の総合施設となっています。

毎年秋に開催され話題となる現代作家によるターナー賞展は、今年も大変刺激的でした。この美術賞は、現代美術に関する議論を高めることを目的の一つとしており、生み出されつつある進行形の新しい芸術を国民に提示する姿勢は、相変わらず鮮烈です。

セント・ポール大聖堂内では、アメリカのビデオ作家ビル・ビオラの大型インスタレーション2点が展示されており、宗教施設と現代美術の取り合わせが衝撃的でした。このセント・ポール大聖堂からテムズ川を越えてテイト・モダンまでの道路と川沿いの遊歩道は、今やロンドンの祝祭性を帯びた新たなランドマークとなっています。

そして数ある刺激的な展覧会の中で、英国ポップアートの代表者デイヴィッド・ホックニーの個展がロイヤル・アカデミーで開催。1960年代に時代の寵児であったホックニーの今を示す82点の肖像画は、颯爽として光に満ち、新しい展開を示していました。予想もしないカストロファイヤーは、今や世界のどこでも起こり得ます。ロンドンはいくつか長い期間にわたり多くの問題に晒され、苦境に立たされると想定されますが、厚い歴史的基盤を持つこの国の芸術文化が、状況の打開あるいは展開を促す起因となることを予感させていました。

熊本市現代美術館館長 桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

2016.10.8[土]—2017.1.9[月・祝]

ジブリの立体建造物展

- 部分を見れば、全体が見える。 -

CAMK
www.camk.or.jp

MUSEUM INFORMATION

2016AUG-OCT

ギャラリーⅢ(GⅢ)は熊本・九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ

2016.7.16-9.11

GⅢ-vol.111

「丸尾三兄弟マルオの食卓」展 閉幕



「丸尾三兄弟マルオの食卓」展は、9月11日に無事会期を終りました。会期中、約500枚の器をお配りした結果、約300枚の「食卓の写真」が美術館に届き、最終的に36883人の方にご覧いただきました。地震のこと、家族のこと、毎日のおかずや、何気ない日常のこと。その食卓の向こうに、それぞれの生活が透けて見えてくるようで、「お腹が減ってきた」「励まされた」など、様々な感想をいただきました。熊本地震後、まだまだ取り組むべき課題はたくさんありますが、「気に入った器で、美味しいものをたべて、明日もがんばろう」という皆さんの思いに、少しでも寄り添えたとすれば、非常に幸いです。

なお、お送りいただいた写真とエピソードは、アーカイブとして以下のブログに掲載させていただきます。http://marunosyokutaku.hatenablog.com (A.S)

GⅢ-vol.112

2016.9.14-11.7

「伊藤有紀恵展 カラーラブポップ」



ギャラリーⅢの第112回目の展覧会として、宮崎市出身・在住の若手作家・伊藤有紀恵さんの作品展を開催しました。伊藤さんの作品の特徴の一つは、その独自の技法です。セロファン紙にカラーペンで着色し、それを5×7ミリ程度の破片に裁断、色合わせをしながら丁寧に1枚ずつ貼り付ける、セロファン貼り絵で作品を制作します。本展は伊藤さんの初めての異人個展。出品点数32点、若さあふれる躍動的な作品世界の魅力を紹介しました。(H・T)

伊藤有紀恵 公開制作

2016.9.17

出品作家の伊藤有紀恵さんによる公開制作を行いました。イラストレーションボードに、セロファンによる貼り絵でフタミソゴを描く伊藤さん。作品は全て、ボードへの下書きは一切なしで作画され



ています。その様子は会場内でもドキュメント映像でご紹介しましたが、今回の公開制作は、真っ白なところからいきなり作品が完成していく手順を、生でご覧いただく機会となりました。

セロファンの細かい色合わせを行いながら、ボディと脚をピンク色のセロファンで造形。脚の関節など、曲線を描く部分は、セロファンの小さい破片の角をさらにはさみできれいなカーブに裁断します。黒色セロファンが貼られたくちばしも微妙なカーブを描きます。ベースの色を貼り終えたら、その上から赤色のセロファンを重ねて貼り、目玉や、羽の重なる様子、脚の関節の微妙な色合いを表現していました。公開制作作品は完成後、会場に展示されました。(H・T)

【参加人数30人】

詩の朗読会

2016.8.25

テーマ「光」

詩の朗読会 第151回

8月のテーマは「光」。原爆や戦争など終戦記念日にちなんだものや、連日の暑さから灼熱の太陽を主題にした方、夏の空に光輝く朝陽、月、星や、夏の風物詩である線香花火や打ち上げ花火を詠む方もいらっしやいました。また、光が強くなればなるほど、闇もまた強くなる」と

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・17時より 無料
上映リスト(8/1~10/22)

- 8月1日「地下鉄に乗って」2006年 日本映画 122分
- 8月8日「危険がいっぱい」1964年 フランス映画 93分
- 8月15日「裸足の夢」2010年 韓国映画 120分
- 8月22日「ぼくたちと駐在さんの700日戦争」2008年 日本映画 110分
- 8月29日「大決戦！超ウルトラ8兄弟」2008年 日本映画 97分
- 9月5日「ポトル・ドリーム」2008年 アメリカ映画 109分
- 9月12日「ドルフィンブルーフジ、もういちど宙へ」2007年 日本映画 105分*日本語字幕付き
- 9月19日「マジック」1978年 アメリカ映画 107分
- 9月26日「アルバート氏の人生」2011年 アイルランド映画 113分
- 10月3日「グッバイ、レニーン！」2003年 ドイツ映画 117分
- 10月10日「LIGHT UP NIPPON - 日本を照らした奇跡の花火 -」2012年 日本映画 99分
*チャリティ上映会(主催:菊池川流域さくら会、共催:LIGHT UP NIPPON実行委員会、熊本市現代美術館)
- 10月17日「17歳の風景」2005年 日本映画 90分

「ごども向け上映会

5月14日~9月19日の毎週土日 10時半より 無料
「キヤスパー」「チップとデール」「NHKごどもにんぎょう劇場」などを上映。
8/1~9/19の期間に計13回開催。

CAMK夏の「ごども映画まつり

11時より 無料

- 8月17日「ポパイ長編3大傑作」1936・1939年 アメリカ作品 55分
- 8月18日「ムーミン谷の惑星」1992年 日本作品 62分
- 8月19日「手塚治虫アニメワールド鉄腕アトム」2003年 日本作品 24分

「光と闇」の対

比について詠んだ方も。亡くなった奥様を題材にした自作詩「レクイエム」では、ドイツを代表する詩人・ゲーテの最後の言葉「もつと光を」を想起させるような内容が印象的でした。さまざまな着眼点で光を捉える作品が揃い、個性あふれる朗読会となりました。(H・T)

【参加人数19人】



詩の朗読会

2016.9.22

テーマ「果実」

詩の朗読会 第152回

9月のテーマは「果実」。今回、詩に詠まれた果物は、オレンジ、いちじく、マクワウリ……。どんな果物を詩にされるのか、聴いている方もわくわくします。また具体的な果物ではなく、熟した、甘く、とろりとした「感触」を詩にし、どんな果物なのかはオーディエンスに委ねるといふ作品も。「果物は形、色、香り、どこをとっても完璧な食べ物だと思います」と語られた方がいらっしやいました。果物の魅力は、五感にうつつたえてくるという点にもあるのかもしれない。(Mi・I)

【参加人数8人】

今田淳子「HIGO・ROCK! HIGO・ROCCA!」第3弾

肥後菊公開

熊本在住の現代美術家・今田淳子さんによる肥後六花プロジェクト「HIGO・ROCK! HIGO・ROCCA!」第3弾の作品第3弾、肥後菊を公開しました。この作品には、今春に市民の皆様から寄贈いただいた古着物が素材の一部として使用されています。(現在募集は終了)

肥後菊がテーマということで、大菊・中菊・小菊の花は、紅、黄、白の色彩。花弁は平弁や筒弁を意識した造形です。今回の注目ポイントは、キンシコウや鯉へビクイワシの頭部と肥後菊がミックスされている点です。キンシコウといえ、熊本市民にとって憩いの場である動物園。ここには動物園再開を待ち望む



アーティストの気持ちが入っています。また地震のことを「地下で巨大ヘビが這うような」と譬えたこともある今田さん、余震のすみやかな終息を祈るかのようなヘビクイワシも登場しています。

「内なる判断の声に耳を澄ませ、大切なことを嗅ぎ分け、時には闘い、それが持っている時間をより輝かせる生き方を目指したいものです」(作家のメッセージより)(H・T)

街なか子育てひろば

2016.8.25

「親子で作って遊ぼう」

8月の子育てひろばのワークショップとして「親子で作って遊ぼう」を開催しました。最初は、紙コップを使って動くおもちゃづくり。紙コップに好きな絵や模様を描いて、内側にゴムと紙ねんどのおもりをしかけて完成です。手前に引いて手を放すと、トコトコという音とともに動き出します。

次に挑戦したのは、牛乳パックとストローを使ったの竹とんぼづくり。羽の部分好きな色で塗ったら、切込みの入ったストローに差し込んでホチキス止めをして完成です。子どもたちは、お母さんがいよいよ飛ばすのを見て大興奮!

2016.9.15

「親子でわくわく音楽あそび」

9月の子育てひろばのワークショップは、「親子でわくわく音楽あそび」。「WAIWAIランド」のお二人の先生を講師に迎え、音楽に合わせていろんな遊びを体験しました。



最後は、笛づくり。名刺くらいの小さな牛乳パックの切れ端とストローが笛に変身します。先生がきれいな音色を響かせると、子どもたちの目がきらきら。子どもたちは嬉しそうに手作りの笛を鳴らしていました。(Y・M)

【参加人数21人】

CAMKEESの活動

2016.8.20

CAMK読みがたり第83回 テーマ「おぼけだぞ〜!」



今回は夏休み中ということもあり、たくさんの子どもたちが参加し、お話を耳を傾けました。手遊び歌「まほうのつえですよ」に合わせて、「大きくな

とあつという間にいちい色、バナナ色、ブドウ色、みかん色、さらにはトロピカル色に変身!しかけいっぱいの読みがたりに、子どもたちも大興奮でした。(H・Ts)

2016.9.17

CAMK読みがたり第84回 テーマ「まほうの国」

今回は、不思議な絵本や「あれっ?」と思うような手遊びまで、色々なお話がありました。「ふしぎなナイフ」では、一つのナイフがとけたり、ちぎれたり、様々に形を変えていきます。不思議な展開に、「どうして?」という表情でお父さんやお母さんの方を振り向く子もいました。カードをつかったクイズ、「ふしぎなぞなぞ」では特徴が読み上げられ、それがなにかを当てていきます。不思議そうな表情から一転、ひらめいたら手を

2016.10.15

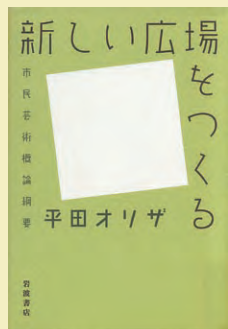
CAMK読みがたり第85回 テーマ「いろんなおうち」

今回ご紹介した絵本は「ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ」「くものいえ」「てぶくる」など。「てぶくる」は、おじいさんの落とした片方の手袋が森のいきものたちの家になるお話。はじめに小さなネズミが住みついて、カエル、ウサギ、キツネと住人は増えていきます。とうとう最後は大きなクマまでも!また、かわい絵を使ったパネルシアターでは、イギリスの有名な童話「三びきのこぶた」を上演しました。ワラのお家、木のお家、レンガのお家。子供たちはとってもワクワクした表情で聞いていました。(Mi・I)

【参加人数62人】

VOL.30

『新しい広場をつくる』



著者:平田オリザ
出版:岩波書店 2013年

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します

平田オリザ氏は、戯曲家・演出家として高名ですが、アーティストの立場から、社会における芸術の役割や文化の公共性といったことを、積極的に説き続けている人物としても知られます。本書は平田氏による文化政策論。なんだか難しそう

に聞こえるかもしれませんが、決して難解な書物ではありません。おそらく高校生くらいから読めると思います。本書では日本が抱える社会問題に視線が注がれ、それらに対して芸術ができることについて検討されています。東日本震災、原発、高齢化、地方都市の在り方、憲法。 「文化」と関連付けながら著者独特の回答が明快に語られます。その中には「芸術保険制度」のようなユニークな提案も。これは、健康保険制度のように「芸術保険」に加入していれば、芸術鑑賞をする際の自己負担額が3割になるというものです。美術館でも映画館でも、観劇でもコンサートでも。芸術愛好家の皆さんは夢のような制度ですね。人が生きるといふことと芸術を享受するということ。その関係を考える糸口がたくさん詰まった一冊です。(Mi・I)

展示会や季節にあわせたコンサートを開催しています
ミュージック・ウエーブ

2016.9.17

大江千里ソロピアノコンサート

Music for Tomorrow in KUMAMOTO、

(主催：note [株式会社ピースオブテイク])



当館の共催事業として、大江千里さんによるピアノコンサートが行われ、ホームギヤラリーから溢れるほどの人で賑わいました。サザエさんのエンディングテーマなど耳なじみのある曲のジャズアレンジや、熊本を想って書き下ろした「KUMAMOTO」などを披露していただきました。折るように演奏する姿がとても印象的で、しっとりとした演奏に皆さん聴き入っていました。MCでは、うってかわってユーモアのある語り口で場を和ませ、ピアノとトークの両面で皆さんを楽しませてくれました。最後には「元気でね!」と旧友のように挨拶され、盛況のうちにイベントは閉幕しました。

(A・M) 【参加人数150人】

2016.10.15

STREET ART PLEX KUMAMOTO EXTRAVAGANZA 2016

〜One for Kumamoto〜

STREET ART PLEXの一年間の集大成「EXTRAVAGANZA 2016」が開催されました。音楽、ダンス、演劇など多様な

なアートパフォーマンスが街中で繰り広げられるこのイベントですが、今回の現代美術館会場では2組が出演しました。



アメリカで長年に渡りジャズピアニストとして活躍されてきた、熊本出身のNobuko Utebackさん率いるNobuko Uteback Trio。美しいバードから、時にロックを混ぜたジャズも交え、「スパルタカス」「ローマの休日」といった映画のテーマ曲も披露していただきました。一つの曲を異なる作曲家のアレンジによって再演奏するという趣向では、同じ曲でも、全く違うものに聴こえる感覚を楽しむことができました。

2組目は、フラメンコギタリストの依英三さん。スペインに滞在されていた時のエピソードも交えながら、「苦悩」や「歓喜」を表したジプシーの音楽を演奏されました。心の奥に入り込んで奏でられたギターの音色に、来場されたみなさんも静かに耳を澄ましておられました。(Y・M)

(Y・M) 【参加人数125人】

2016.10.19

第11回 南阿蘇えほんのくに誕生祭 笑顔とどけるブルービーフェスタ 復興応援ピアノコンサート

南阿蘇えほんのくに運営委員会主催による「第11回 南阿蘇えほんのくに誕生祭 笑顔とどけるブルービーフェスタ」の最後のイベントとして、当館ホームギヤラリーでモスクワ出身のピアニスト、



ユリアンナ・アヴデーエワさんの演奏による「復興応援ピアノコンサート」が開催されました。ベートーヴェンとショパンの計4曲を披露していただき、芯のある美しい演奏からは、

爽やかな元気をもらいました。(K・O)

【参加人数110人】

アヴデーエワさんの大ファンです。熊本でコンサートを催してくださり本当にありがとうございました。コンサートをしてくださいとお願いだけでも元気にになりました！いつかまたぜひ、熊本に来て下さい！(アンケートより)

2016.9.9.24

復興チャリティーコンサート

「日本のしらべ」

「日本のしらべ」と題し、9月の毎週土・日曜日に、当館アトロフトで箏や尺八、三絃による復興チャリティーコンサートが行われました。演奏は、熊本箏演奏者協会、平成音楽大学 合奏クラブ、すずかけ台保育園卒園生、(公社)



日本尺八連盟有志のみなさんです。「熊本城」「アメージンググレース」「春の海」「涙そうそう」他、なじみ深い曲を演奏していただき、箏や尺八の和やかな調べにとっても穏やかな気持ちになりました。(K・O)

上通アートプロジェクト2016
上通チャリティー演劇まつり

2016.8.12

上通チャリティー演劇まつり

前夜祭



昨年大好評だった「上通演劇まつり」が今年も開催され、前夜祭ではインタビュー映像と朗読劇からなる「あの日、あとき上通」が上演されました。池田美樹さん(劇団きらら)と大迫旭洋さん(不思議少年)のトークを交えながら、映像と劇団

員による朗読で上通の歩みを振り返りました。いろんな世代の方のお話を記録した映像では、「上通のこの場所でお父さんと自転車の練習をした」という思い出、白川水害の話、恋愛がちょっとした事件を招いたお話など、上通の人々の笑顔や奮闘、涙、笑い、様々な情景が浮かび上がりました。「上通の挑戦」と題したパートは、力を合わせて鳥人間コンテストに出場したことや、工夫をこらした飲食店マップを現在作っていることなど、上通の人々の試みに元気づけられる内容でした。最後は、劇団員さんたちによる朗読で、心温まる一夜になりました。(Y・M)

【参加人数70人】

2016.8.13-14

上通チャリティー演劇まつり

上通の魅力と演劇のチカラがコラボレーションした「上通チャリティー演劇まつり」が開催



「つり」が開催され、現代美術館では「現美劇場」と銘打って、熊本・長崎・東京の劇団やダンスカンパニーによる短編を上演しました。ほぼすべての公演が満員御礼となりました。

た！また上通アークードでは、造形作家gajuさん制作のプロセニアム(舞台)の中で公演が行われました。こちらも本格的な朗読劇やコント、即興劇などが繰り広げられ、たくさんの方が足を止めて観劇されていました。

4月の地震の後、上通の皆さんと劇団

の皆さんと劇団の皆さんが、熊本の人たちに笑顔になってもらおうと準備を重ね、今年の「演劇まつり」が実現できました。



笑いあり、お客さんを巻き込んでのアドリブあり、うっとりとする瞬間もあり、観る人を前向きな気持ちにさせてくれる各ステージでした。各会場で集まった義援金は、熊本県の平成28年熊本地震災義援金に全額寄付させていただきます。(H・Ts)

【参加人数420人】

2016.5.25-6.31

みんなであさがお ワークシヨップ



「アートえんにち」のイベントの一つとして、「あさがおワークシヨップ」を行いました。アトスカイギャラリーにネットを設置し、お客さんが折り紙で作った朝顔を好きなどころに飾っていただきました。小さな子どもたちからご年配の方までご参加いただき、たちまち窓際は朝顔のカーテンで彩られました。

4月の熊本地震の後、日々の不安の中でも手作業をして心と和らぐひとときを持っていただこうと、このイベントは予定よりも早く5月下旬から始まりました。ゆったりと折り紙をされる姿に、こちらの気持ちまで和らぐようでした。(A・M)

金氏徹平先生と ワークシヨップしよう!

2016.8.8

現代美術家・金氏徹平さんのワークシヨップを行いました。今回のテーマは、金氏さんの代表作でもある「白い彫刻」の制作を体験する、というものです。身の回りがある、いらなくなったカラフルな廃材や、おもちゃなどを重ねて形をつくり、そこに白い石膏をかけると、あ

ら不思議!

彫刻の形になつていきます。金氏さんは建物や自動車に厚く降り積もった雪をみて、この白い彫刻を作ることを思いついたそうです。1人で作る小さな作品と、みんなでつくる大きな作品の両方を体験し、皆さん大満足の時間になりました。(A・S) 【参加人数15人】



2016.8.21

藤木淳先生と「ふしぎなオブ ジェを作ろう!」ワークシヨップ

ふしぎな模様のオブジェを作るワークシヨップを行いました。講師は、春に開催した「だまし絵王エッシャーの挑戦状」展の出品作家で、研究者の藤木淳さん。ふしぎなオブジェは、3Dプリンタで作った人型の立体に目を混乱させるような模様を描いて作っていきます。立体の表面には、○と□のでこぼこがあり、こ



の凹凸に濃淡をつけて色を塗っていくと、浮き出て見えたり、へこんで見えたり、ふしぎな見え方をしてきます。

アートバス・アウトリーチ

2016.10.17

アートバス 芳野小学校3・6年生



熊本市西区の芳野小学校の3・6年生の皆さんが、

アートバスを利用して美術館にやってきました。午前中は探検ツアーと「ジブリの立体建造物展」の鑑賞。午後からは、アーティストの林浩さんを講師に「100万円札を作ろう」のワークシヨップを行いました。まずお札が出来るまでのビデオを見て、その後、実際のお札を虫眼鏡やルーペで観察します。「こんなところまで文字が!」という思わぬ発見があつてみんなびくびく。観察を活かして大きな紙に自分だけの「100万円

札」を作りました。自分の顔あり、戦国武将あり、好きなキャラクターありの楽しいお札がたくさん完成していました! (A・S) 【参加人数36人】

2016.10.20

アートバス 山本小学校1・2年生

熊本市北区にある山本小学校の1・2年生の皆さんが、アートバスを利用して美術館にやってきました。午前中は美術館内の探検ツアーの後、展覧会を鑑賞。午後からは、ワークシヨップ「光るまちをえがこう」で、自分が住みたい家や街などを描きました。秘密基地やお城、展覧会で見た建造物など、次々とイメージが広がりました。完成した絵を暗い部屋に並べ、ブラックライトを点灯。まるでイルミネーションをつけたかのような描かれた建物たちに「きれい!」と歓声があがりしました。(M・I) 【参加人数30人】

CAMK 人形劇 「桃太郎」

2016.8.31

【参加人数15人】

毎年大好評の「劇団ぱれっと」による人形劇を開催しました。今年のおはなしは、「桃太郎」。桃から生まれた桃太郎はすくすく育ち、人々を苦しめているという鬼を退治すべく旅立ちます。道中、日



本一のきび団子を食べ、イヌ・サル・キジも仲間。鬼ヶ島についた一行は果敢に鬼たちに向かいます。ユニークなキャラクターたちによる笑いどころ満載の人形劇で、「ももたるさん、ももたるさん」と歌ったり、音楽に合わせて手拍子したりとたいへんな盛り上がりでした! (K・O) 【参加人数220人】

芸術文化出張講座

講師のアーティストとともに美術館をとび出し、学校などで実演やワークシヨップを行っています。

日付	学校名 [学年・参加人数]	内容	講師
9.1	池田小 [5年生88名]	民謡と邦楽WS	田中祥子 ほか
9.13	泉ヶ丘小 [全学年357名]	民謡と邦楽WS	田中祥子 ほか
9.21	池上小 [全学年257名]	弦楽アンサンブルC	熊本ミュージックアーティスト
10.2	芳野中 [全学年40名]	サンパダンスWS	マサシ (サンパダンサー)
10.5	画図小 [全学年997名]	弦楽アンサンブルC	熊本ミュージックアーティスト
10.5	城南小 [2.3年生106名]	サンパダンスWS	マサシ (サンパダンサー)
10.6	日吉東小 [全学年476名]	弦楽アンサンブルC	熊本ミュージックアーティスト
10.17	田原小 [全学年104名]	表現WS	劇団きさら
10.18	日吉小 [全学年423名]	弦楽アンサンブルC	熊本ミュージックアーティスト
10.21	託麻南小 [4年生188名]	現代邦楽C	松下知代 ほか



民謡と邦楽WS

サンパダンスWS



WS...ワークシヨップ
C...コンサート

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

【丸尾三兄弟 マルオの食卓展】

■涙が出ました。とても良い企画室でした。熊本の人暮らしや震災、天草という地場産業や工芸が、現代アートと相関しているんなものごとを包摂し、幸せを見出そうとしているのに心打られました。(県内30代)

【江口寿史展 KING OF POP くまもと上通編】

■普段いけない店などにいけて、とても見ごたえがありました。あるくのはとても大変だったけど、たのしかったです。(市内10代)

【伊藤有紀恵展 カラーラブポップ】

■くまおがとってもかわいかったです。明るい色づかいで楽しい気持ちになりました。(県外20代)

【ジブリの立体建造物展】

■原画が多くあり、見ごたえがありました。(県外20代)
■建築についての解説を聞きながらとても興味深く見ました。(県外50代)

ART DE GYAN

アート・どぎゃん

熊本弁で「アートはどやなの？」
という意味です

第38回熊本県書道展

熊本県立美術館 本館

熊本市中心区二の丸28

096-3551-8411

2016.9.27-10.2

「熊本書法文化振興会」の主催す
県下の書道団体連合会である

の書道展。公募の部では、特選3名、秀作8名、入選32名の作品が展示されていた。さらに会員29名、准会員40名、無鑑査12名、会友29名の漢字、かな、近代詩文、少字数書、墨象の作品はそれぞれよく努力された秀作が見られた。特に自由発想の書は、久しぶりに感動させられた作品が見られた。「鯨退散」「哀悼」と、稲田春運さんの大作は、



熊本地震の復興への「祈り」を力強く書いていた。画家のギャバ釘本さんの墨象も表現が面白くみられ、森山淡草さんによる「参与」、甲骨文「旋」等は、造形のうまさ墨色の美を歌い上げる新鮮な作品群が多く見られ、すばらしく楽しい会場となっていた。(S・K)

久多見健堂書展

アトススペース大宝堂

熊本市中心区上通町5-6

096-354-2155

2016.9.7-9.12

尚綱大学書道コースの教授であり書家の久多見健堂さんの個展。今回は、13年前の阿蘇・白川のギャラリーでの個展の後、二度目

の個展になるが、定年退職の機会をとらえて、近作の漢字、かな、近代詩文書等、27点を展示した。夏目漱石「天草の後ろに寒き入り日かな」や種田山頭火の四曲屏風をはじめ、「火の国旅情」や「平常心是道」の禅語に漱石の俳句等、かなも漢字も用筆の変化に富み力強いタッチの線質も見られ、多彩で楽しく明るい書展となっていた。(S・K)



第35回兼城昌山とそのグループ展(書)

熊本県立美術館 分館 展示室1

熊本市中心区千葉城町2-18

096-351-8411

2016.7.20-7.24

熊本県書道連盟常任顧問の兼城昌山氏の書道講座受講生を含めた門下生の書道展。一字を題材にした所謂「少字数作品」が多いのがこの展覧会の特徴である。指導者の兼城氏は「興」「志」「老」「城」の四点を並べていた。「興」「志」は淡い滲みの重厚さで余裕を見せていたが、今回は「城」に新たな筆の動きが加わって面白いと感じた。熊本城への想いからか?

門下生では、中央の毎日展への挑戦で研鑽を積んだ笠久美氏、高森淑香氏、木原安子氏に注目した。木原氏の安定した筆触には年期が見え、笠氏と高森氏の墨色の変化への試みが新味。ただ美的には今一步の感あり、であったのが惜しまれた。(T・M)



編集後記



毎年ことながら、夏は美術館でもたくさんのイベントを開催します。それに加えて最近では館外でのアウトリーチ事業なども頻繁に開催しており、AKLの記事をまとめていると、よくもまあこんなに色々やったなあ、わが館のことながら感じます。ただ、イベントの数に応じてAKLの記事数も多くなっていくので、紙面の関係で写真が大きく載せられなくなっていくのが少し惜しいところではあります…。

編集長 佐々木玄太郎

ホームギャラリーでは「ジブリの立体建造物展」に合せて、久石譲さんのCDを流しています。ジブリ映画の名曲はボランティアさんによる夜のピアノコンサートでも人気で、映画の情景を蘇えらせてくれるのが不思議です(私はとなりのトトロの「風の通り道」を聴くと大きなクスノキが浮かんでいきます)。ぜひみなさんもホームギャラリーでAKLを開きつつ、ジブリの名曲を楽しんでいただけましたら幸いです。

担当 大田黒翔代

AKL

ART KISS LETTER

vol.79

- [執筆者一覧] *原稿の文末にイニシャル表記
- 兼城昌山 (S・K) [書道家]
- 森山淡草 (T・M) [書道家]
- 岩崎千夏 (C・I) [熊本市現代美術館事務局次長]
- 富澤治子 (H・T) [熊本市現代美術館主任学芸員]
- 坂本顕子 (A・S) [熊本市現代美術館主任学芸員]
- 池澤茉莉 (M・I) [熊本市現代美術館学芸員]
- 岩崎美千子 (Mi・I) [熊本市現代美術館学芸員]
- 丸吉ゆかり (Y・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
- 大田黒翔代 (K・O) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
- 塚本春菜 (H・Ts) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
- 村上綾 (A・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]
- 三浦和紗 (K・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

ART KISS LETTER アート・キッスレター

vol.79 冬号(2016年12月) 【無料】

発行人: 桜井武

編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代

デザイン: 石井克昌 (MOTOSHIKI)

印刷: シモタ印刷

発行: 熊本市現代美術館

http://www.camk.or.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

電話 096-278-7500 FAX 096-359-7892

【次号は早春号(2017年2月発行予定)】

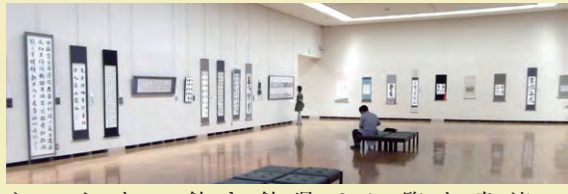
今年の年末年始は大晦日と元旦以外は開館します!



第29回選抜茶掛展合同展

熊本県立美術館 本館
熊本市中央区二の丸28
096・351・8411

2016.9.13-9.19



国際文化交流会の二種の書道合同展である。従来、臨書展は3月に、茶掛展は6月・7月に県立美術館分館で開催してきたが、美術館工事や地震のため、会場を本館に変更して合同展という形になった。

臨書展は、67名が中国殷代から清代までの歴史名跡と我が国平安の空海、佐理、それに昭和初期の津金鶴仙に様々な挑み方で意気込みを見せてくれた。中国の場合、金文・小篆・隸書・竹木簡の書体の変遷状況と、明清時代の表現様式の変化の大きさが見どころである。

招待の浦川草徑・三嶋天鴻は余裕、会長の森山淡草は役職の意地。臨書展の実質主催者である事務局長・緒方龍生の細字多数字五種（趙之謙、何紹基、文徵明、蘇軾、大智度論）の労作は「独り気を吐く」の感あり。一朝一夕に為せる仕事ではないと敬服。

茶掛展は八十五名が掛軸という

様式の中で、思い思いの自由な表現、様々な意匠を凝らした表装で華やかさを競っていた。「茶掛」というと、茶室に相応しい言葉と渋い表装という観念があったが、近年は言葉も内容に広がりが見られ、表装も派手さを増して会場が賑やかになってきた。喜ぶべきか。(T・M)

「二人の視線」展

長崎書店ギャラリー
熊本市中央区上通町6・23
096・353・0595
2016.8.20-31

画家の澤村武山さんと陶芸家の石井啓一さんの二人による展覧会。長崎書店ギャラリーでは、今回のような企画持ち込みの展覧会は初めての試みとのこと。澤村さんは、近所の田んぼや住宅街などの風景を、筆跡の残る力強いタッチと光を意識した明るい色彩で描き、石井さんは白・ブルー・こげ茶色を基調に普段使いに良いサイズのカップやお皿、箸置きなど数十点を展示。また、展覧会初日には数量限定で石井さんによるクマの箸置きが配られるというイベントも行われていた。穏やかな生活、



のんびりとした時間が感じられる気持ちよよい展示だった。(K・O)

以下、芸芸員実習生による記事

「陶人形作家にしだみき土のカタチ」展

熊本県伝統工芸館2階展示室B
熊本市中央区千葉城町3・35
096・324・4930
2016.8.23-28



熊本を中心に活動されている陶人形作家の西田美紀さんによる作品展。西田さんは子どもや動物、妖怪などの架空の生き物からアルファベットまで、実に様々なテーマで制作されている。手にすっぽりと収まる小さな物から少し大きな物まで、素材だが繊細に作り込まれており、心を和ませる。特に子どもの人形は、可愛らしい洋服を身に纏い、そのちよつとした仕草や、ふわふわとした髪、思わずつつきたくなるような頬に、優しさや柔らかさを感じた。鯨の作品は、4月の熊本地震から思いつき制作したそうだ。展示されている約300点の作品はどれも購入することができる。じっと見ていると、何かを語りかけてくるような気がした。(塚本梨乃)

備前焼三人展

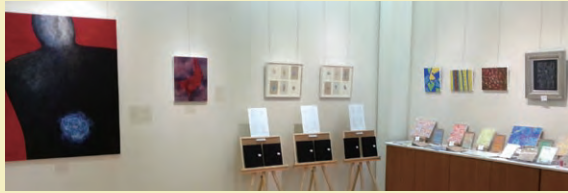
熊本県伝統工芸館1階展示室
熊本市中央区千葉城町3・35
096・324・4930
2016.8.23-28



展示室には、備前焼で作られた風鈴の爽やかな音が鳴り響いていた。佐藤和久氏、藤森信太郎氏、表崎秀仁氏による「備前焼三人展」。中でも面白かったのは、マグや洋服のボタン、豚の形をしたiPhoneスピーカー、ペット用の水入れ、焼酎サーバーなど、現代風のものも多く置いてあったことだ。そして気に入ったものはその場で購入できるようになっている。備前焼は花を挿せば長持ちするし、飲み物を入れれば熱しにくく冷めにくい。良いとこだだらけの焼き物である。実際に触れてみるとざらざらとした手触りで手に馴染み、重さもなく、家で使う様子を想像するとウキウキする。残暑の夏、冷えたビールを備前焼のピアマグに注いで飲んでみるのもいいだろう。(高木綾乃)

西澤優子展Ⅵ 「やさしさのひとかけら」

ギャラリーカフェアーク
熊本市中央区上通町5・46
096・352・3308
2016.8.23-28



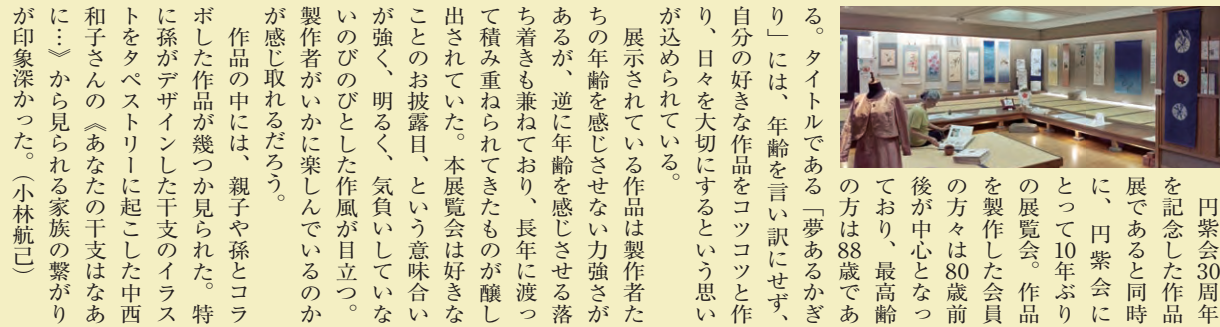
心象アーティスト西澤優子さんの個展には、20数点程の心象日本画とそれに合わせた詩が並ぶ。以前は人物画を描いていた西澤さんが、絵を描けない時期を経験し、現在の作品のように人物ではなくその人が持つ背景や空間を描くようになったという。

彼女の詩には、他者に対する寂しさや虚しさ、支配欲、そこに混在する温かさや安心感が生々しく綴られている。絵画作品《なんだろ》は、得体の知れない白い物体が黒い闇の中に現れている。タイトルのように、なんだろうかと思うそれは感情や心の不可解さ、形状や概念の無さを現しているようにみえる。

誰もが持つ自身の中でうごめく他者への感情を、西澤さんが代弁しているような展覧会であった。(三重野優希)

円紫会30周年記念 「夢あるかぎり」

熊本県伝統工芸館地下和室
熊本市中央区千葉城町3・35
096・324・4930
2016.8.24-28



円紫会30周年を記念した作品展であると同時に、円紫会にとって10年ぶりの展覧会。作品を製作した会員の方々は80歳前後が中心となっており、最高齢の方は88歳である。タイトルである「夢あるかぎり」には、年齢を言い訳にせず、自分の好きな作品をコツコツと作り、日々を大切にするという思いが込められている。

展示されている作品は製作者たちの年齢を感じさせない力強さがあるが、逆に年齢を感じさせる落ち着きも兼ねており、長年に渡って積み重ねられてきたものが醸し出されていた。本展覧会は好きなことのお披露目、という意味合いが強く、明るく、気負いしていないのびのびとした作風が目立つ。製作者がいかにも楽しんでるのかが感じ取れるだろう。

作品の中には、親子や孫とコラボした作品が幾つか見られた。特に孫がデザインした干支のイラストをタペストリーに起こした中西和子さんの《あなたの干支はなかに》から見られる家族の繋がりが印象深かった。(小林航己)

2016.10.7

「ジブリの立体建造物展」開幕



10月8日の一般公開に先立ち、「ジブリの立体建造物展」の開会式と内覧会が行われました。開会式では、スタジオジブリの野中晋輔制作業務部取締役部長にお話し

長にもご挨拶をいただきました。本展は、建築という切り口から改めてスタジオジブリ作品の魅力を見せる展覧会。「ジブリ作品に登場する建物は本当に建てられるのか？」という疑問を出発点に、建物の歴史的・文化的な背景までを掘り下げて紹介しています。建築史家の藤森照信さんによる解説もたいへん充実しており、「そうだったのか!」という驚きの情報が満載です。ジブリ作品に登場する主要な建物の立体模型をはじめ、映画の世界観をスタッフが共有するためのイメージボードや、精密に描かれた背景画など約450点を一挙に公開しているほか、熊本会場の特別企画として、山鹿燈籠の技術によって制作された「ラピュタ城」も展示されています。(A・M)

スタジオジブリの取締役によるレクチャー

「ジブリの立体建造物展」関連イベントとして、スタジオジブリの関係者の方々によるスペシャルレクチャーシリーズ

ズが実現しました。そのトップバッターとして、展覧会初日にはスタジオジブリの

野中晋輔制作業務部取締役部長にお話し



「ギブリーズ episode2」に登場する「野中くん」のモデルでもあり、スタジオジブリの生き字引とも呼ばれています。今回は「スタジオジブリの特徴とその作品について」と題して、スタジオジブリの制作に対する考え方、制作現場の様子、「千と千尋の神隠し」など作品のエピソードについて、丁寧にお話しいただきました。(M・I) 【参加人数90人】

本展企画者によるレクチャー



ジブリスペシャルレクチャー② 本展企画者によるレクチャーを開催しました。

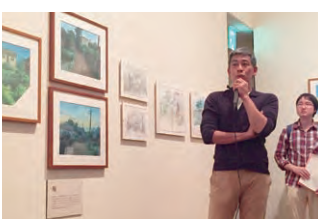
にお集まりいただき、中には大阪からいらつしやったという方も。

本展の始まりは、青木さんが監修者である藤森照信さんとアニメーションの中心の建築なのだから、実際には建てられないものもあるのでは? という話になったことにあるとのこと。しかし、ジブリ

作品に登場する建物は、細部まで理にかなった成り立つ構造になっていたそうです。そのようなジブリの細やかな描写の原点は、ロケハンの際、宮崎駿監督が高畑勲監督から「写真を撮るのではなく、スケッチをする。建物の中と人の生活を想像する」といわれたことにあるとお話しされました。

その後は、会場からの質問にお答えしながら、制作工程から作品にまつわる都市伝説の話まで、幅広くお話しいただきました。(A・M) 【参加人数62人】

スタジオジブリ作品の美術監督によるプレミアムナイトツアー



ジブリスペシャルレクチャー③ 三弾では、「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」など数々のスタジオジブリ作品の美術監督を務めた武重洋二さん

講師にお迎えして、人数限定のナイトツアーを開催しました。前半はホームギャラーで映像を見ながら、アニメーション制作のプロセスと美術監督の役割についてお話しいただきました。

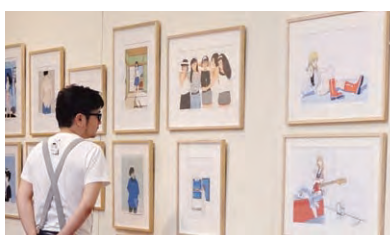
その後、貸切状態の展示会場内へ。原画の前に、各作品の制作時のエピソードをご紹介します。武重さんは、参加者のみなさんからの質問に対しても一つ一つ丁寧に答えてくださいました。ツアー参加者の皆さんからは、「実際に作品を作っ

いる方からお話を聞くことができ、よかった」「普段はなかなかできない体験ができた」といったうれしい声をたくさんいただきました。(K・M) 【合計参加人数60人】

井手宣通記念ギャラリー

2016.9.22-11.6

江口寿史展 KING OF POP くまもと上通編



当館の井手宣通記念ギャラリーおよび上通商店街を舞台に、熊本出身のマンガ家・江口寿史さんの38年間の画業を振り返る展覧会「江口寿史展 KING OF POP くまもと上通編」が開催されました。この展覧会は、江口さんの画業の集大成となる画集『KING OF POP』の刊行を記念して、全国のマンガミュージアム等を巡回してきました。出身地となる熊本では、「くまもと上通編」と題し、「上通アートプロジェクト」の一つとして、上通商店街一帯の約40店舗と合同で開催しました。メガネ屋さんにはメガネをかけた女の子など、店舗にあわせた作品が展示され、アートを身近に感じるイベントとなりました。当館では、マンガ原稿やカラーラストなど原画を中心に170点以上を公開。県外からお越しの方も多く、初日から多くのお客様で上通全体が賑わいを見せていました。(K・O)

石内都さん、石牟礼道子さん・水俣を取材

2016.9.23-25



国際的に活躍する写真家の石内都さん。来年秋に開催予定の「誉のくまもと」展(仮称)への参加に向けて、当館会場下見と新作制作のため熊本に取材に来ていただきました。前日までの雨から一転、快晴となり、自然光で撮影する石内さんにぴったりの条件となりました。「晴れ女なんです」とほほ笑む石内さん。

今回取材を行い、来年の展覧会で初公開する新作の主題は、石牟礼道子さん。渡辺京二さんとのツーショットも撮影しました。石牟礼さんは、にっこりとほほ笑んで石内さんとの2年ぶりの再会を喜び、伊藤比呂美さんも交えて会話が盛り上がりました。撮影時には、石内さんの集中した気配は辺りに満ち、緊張感がありつつも静かで、穏やかに優しく明るい空気に包まれた場が出現しました。

熊本滞在中には、水俣へも一日取材されました。「ずっと来たかったんです」と何度も口にされながら、水俣病資料館、水俣病センター相思社などを訪問しました。(H・T)